

茶釜の湯開設記念講演会

「ジカウイルス関連の最近の話題」

—半世紀にわたる胎盤研究を通じて—

天然温泉を活用した「茶釜の湯」が7月9日に開所したのを記念し、こけら落としとして8月3日、記念講演会が開かれました。主催は城西病院 ICT 院内感染対策委員会で、胎盤研究で第一人者の相馬廣明・城西病院名誉院長が講師となり、半世紀近く携わってきた胎盤研究をもとに、「ジカウイルス関連の最近の話題—半世紀にわたる胎盤研究を通じて」をテーマに講演しました。

相馬名誉院長は、「ジカウイルスは、1947年にアフリカのウガンダのジカという場所で発見された」と、ジカウイルスについて解説。ジカ森林公園のサルからウイルスが見つかり、ウイルスは蚊を媒体として感染。また、性交渉でも人から人へと感染するなど、ジカウイルス感染症や感染経路などについて分かりやすく説明。5日に開幕するリオ五輪開催地のブラジルでは、2015年ごろから海を渡ってジカウイルス感染症が入ってきたとし、「妊婦に感染した場合が最も怖い。小頭症の発症が高く、ブラジルでジカ熱の流行が始まり1年足らずで、小頭症の新生児は4000人くらい出ている」とし、妊娠7～13週の間にはジカウイルスに感染した場合の発症が高いと話しました。

相馬名誉院長は、「小頭症は原爆によっても出現



相馬廣明名誉院長

城西病院名誉委員長、東京医科大学、埼玉医科大学名誉教授。胎盤研究の第一人者。1979年にアメリカのダートマス大学で胎盤研究。その後、ネパール・ヒマラヤで胎盤研究に入る傍ら、現地での診療や産婦人科医師の育成に尽力。ネパール国王から勲章を授与され、「ネパールの産婦人科の父」と称されています。また、茨城国際親善厚生財団の医療支援活動にも率先して取り組んできました。



している。ペシャワールやアフガニスタンでも小頭症など頭部の障害が多かった」とし、小頭症になる胎盤のメカニズムについても分かりやすく解説しました。最後に「アメリカや韓国などはリオ五輪での感染予防でコンドームや殺虫剤を配布している。しかし、日本は何もしない。本当にいいのか」と疑問を投げかけました。

会場には前場文夫結城市長や臼井平八郎県議も駆け付け、熱心に講演を聴いていました。

城西病院グループでは、この記念講演会を皮切りに、施設を活用して、地域の人たちの健康講演会や講座などを開催する意向で、「茶釜の湯」を地域に開かれた施設として運営していきます。

平成 28 年 8 月 4 日

